

8. 中国（地域別調査機関：（社）中国地方総合研究センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	家電量販店（予算担当）	・3か月後（7月）は夏商戦の時期であるが、企業業績の回復に伴い夏期賞与にも期待が持てる。加えて白物家電の買換えサイクルに入っていることもあり、環境は十分に整っていると考えている。
		一般レストラン（経営者）	・4月中旬にメニューを新しくし、その影響からか来客数・客単価・売上とともにすべて前年をクリアしている。これから先もしばらく良い状態が続く。
旅行代理店（経営者）		・客の動きは活発になってきている。現在はまだ数字にあらわれていないが、やがて数字に反映される。	
やや良くなる		商店街（代表者）	・周辺に新規店舗が開店する予定があり、今後新しい客層が商店街に入り込む可能性がある。
		百貨店（販売促進担当）	・販売額が徐々に増加してきており、今後もこの傾向は続く。
		スーパー（店長）	・全般的に、販売点数・客数・売上と徐々に前年を上回ってきている状況が続いている。今後もこの状況が続く。
		スーパー（店長）	・客単価は上昇中であり、一品単価も上昇中である。今よりも少しグレードの高い商品の動きが良くなってくる可能性がある。
		スーパー（店長）	・ここ数か月の動きをみていると、客単価および客数が少しずつ右肩上がりに伸び始めている。この流れのまま、2～3か月は推移する。
		コンビニ（エリア担当）	・客数の伸びは、今後も継続して伸びていくと思われる。客単価の低下は、客に合わせた商品の品揃えで対応できる。
		コンビニ（エリア担当）	・2～3か月先に、新規の大型店が出店する予定もあるようで、既存店の順調な回復とともに、徐々に良くなる。
		家電量販店（店長）	・サッカーワールドカップ開催、地上デジタル放送目前で、テレビ・DVDの動きは今後も良くなると思われる。ただし、パソコン関係は多少停滞気味である。
		家電量販店（店長）	・大型の液晶テレビが徐々に売れ始めている。特に現在の売れ筋は、37インチ40インチがメインになっている。
		乗用車販売店（統括）	・今後予定されている新商品が発売されると、販売は全体的に活性化する。
		自動車備品販売店（経営者）	・現在、接客を重視しているが、客の反応も良く、今後発売されるナビゲーションの新製品も期待感があり今以上の販売が予測される。
		その他小売（営業担当）	・客数の微増、客単価の増加で、この傾向は今後も続く。
		一般レストラン（店長）	・イベント等も成功している。客数増は今後も続く。
		一般レストラン（店長）	・来客数の動きをみると、昨年度は落ち込んでいたが、今年は1～4月まで徐々に伸びをみせている。このまま、夏ごろまで伸びを続けるのではないかと。
		都市型ホテル（従業員）	・展示会の予約が活発になっており、消費拡大の期待感が増していると感じる。
		都市型ホテル（総務担当）	・5月以降の一般宴会の受注状況及び宿泊におけるオンハンド状況を見て、前年比で増加傾向にあり、景気回復基調にあるものと感じられる。しかしながら、原油高騰が続くようであれば、この景気回復基調に水を差し兼ねない状況になるのではないかと不安も残る。
		タクシー運転手	・今後5月はゴールデンウィークで観光需要が活発であると予想される。また、6月以降も各企業の話や、売上予測等それぞれ前年を上回る数字を出しているとのことで、我々の業界もやや良くなる。
		通信会社（販売企画担当）	・夏の商戦期を控え、新商品の発売が続々あるので、販売数は増加する。
テーマパーク（業務担当）	・追加の広報効果が中旬から出てきており、天候・施設の回復による効果も得られる。		
競艇場（職員）	・6月からは、競艇のレースおよび、場外発売のナイターレースを併用発売する日が増えるので、いつもとは違う客層も集客できる。		
美容室（経営者）	・新しい期が始まり、組織の改革等企画部門を別に作り、計画通りに進んでいけば良くなる。		

	設計事務所（経営者）	・4月に入り石油価格上昇の影響からか、素材価格や建築製品価格が値上がり方向で改定される通知があったり、来年の消費税アップの噂もあり、客のマイホーム獲得計画時期が早まってくる。
	住宅販売会社（販売担当）	・融資金利の先高感があるということと、土地の価格が下げ止まりに近づいているということから、今後住宅業界の景気はやや良くなる。
変わらない	百貨店（販売促進担当）	・市郊外に先日二つの商業施設が同時オープンした。土日中心に集客を強めており、市内人口が変わらぬ中、競業状況のみ強まっている状況であり、商況自体が好転する要因は見当たらない。特に店集客のマイナスも加わり、食品部門の低迷が顕著である。
	百貨店（売場担当）	・百貨店向けの展示会では多く並んでいるサンダルも、既にメーカーが生産していない状況ははっきりしてきたため、盛夏・晩夏対応のサンダルが店頭には並ばない状況になる可能性がある。
	百貨店（売場担当）	・百貨店全体でいえば、食品と婦人服という、百貨店を支える二大商品群の売上が依然として厳しい状況である。なかなか上向きの兆しがみえてこない。
	百貨店（売場担当）	・この3か月は気温の変化が著しかったため、4月末くらいから徐々に夏物の動きが良くなっている。客数は少ないが、客単価が前年比150%と上昇している。
	百貨店（購買担当）	・気温の変化によって、客の購買意欲が変わってきている。今月上旬は寒い日が多く、売場のサマーファッションの動きが鈍かったが、下旬になって気温も上がりやっと動きを見せ始めた。しかし、ゴールデンウィークに関連する商品がまだ動かず、客は直近になって必要な物だけを求めるという傾向にある。これは、3か月先もあまり変わらない。
	百貨店（販売担当）	・4月ほどの低迷はないにしても、客の購買意欲に大きな変化はないと思われる。特に子供関連の商品は7月からのクリアランスセールを前に購入が慎重になる。
	スーパー（店長）	・客の奪い合いには終わりはなく、その手段としての価格競争の激化はまだ続くと思われる。そのうえ、原油の高騰によるガソリンの値上げ、石油関連製品の値上げ、搬送費のコストアップ等、家計に影響が出てくる。
	スーパー（店長）	・客数減が今より悪くなることはないと思われるが、大変厳しい状況が続いている。ただし、競合店がもう一店舗オープンする予定で、現状を維持するのが精一杯である。
	スーパー（店長）	・天候の影響で多少の変動は予想されるが、食品に出資する客の買上動向としては、無駄な物は買わないという傾向が強くなり、単価的にも低い状態で推移する。したがって、今月同様大きな差は出ない。
	スーパー（総務担当）	・生鮮商品の単価が上昇しそうになく、競合のため紙製品・洗剤・乾物等全体に低下したままである。またその分、販売点数が伸びればいいが、全くその気配もない。
	衣料品専門店（店長）	・この数が月間の傾向をみても、来客数・販売点数が伸びていない。トータル的な購入がなく、必要最小限の商品しか購入しないという状況は、景気の回復にはまだいたっていない状況が続く。
	乗用車販売店（経営者）	・原油高に伴いガソリン代も上昇することで、我々自動車業界にも、ジワジワと影響が出てくると思われ心配している。一部業種以外は、これから2～3か月先も、これという手応えは感じられそうにない。
	自動車備品販売店（店長）	・来客数の動き、売上ともにそこそこである。2～3か月先もこの状態が続く。
	その他専門店〔スポーツ〕（店長）	・サッカーワールドカップが6月にあるものの、近隣の商店街の集客力があきらかに落ちているし、郊外のショッピングモールの集客のほう为好調なため、景気は良くならない。
	その他専門店〔書籍〕（従業員）	・4月期は目標値に対し、まずまずの売上である。世界的ベストセラー等の新刊も発売されるので、この調子がしばらく続くのでは。
高級レストラン（スタッフ）	・一般の宴会は先行き不透明であり、婚礼についての予約状況は厳しいものとなっている。	
その他飲食〔ハンバーガー〕（経営者）	・若干の値上げと新商品により客単価は維持できそうなので、しばらくは良い傾向が続く。	
観光型ホテル（スタッフ）	・ゴールデンウィークを迎えて、いったん景気がよくなるが、その後の予約状況は横ばい状態である。	

	都市型ホテル（経営者）	・予約状況が前年と比較して大差がない。	
	タクシー運転手	・乗客の話を聞いても、景気が良くなるような話は聞かれない。	
	タクシー運転手	・現在の景気が今年の秋くらいまでは変わらずに推移すると思われる。ただし、タクシー業界ではどこの会社でも、乗務員の確保さえできれば増車の傾向にあり、多少の景気の上昇があっても売上はあまり変化しない。	
	通信会社（企画担当）	・光関連商品について、初期費用のキャンペーン値引きは続いているが、月額費用については価格が落ち着いており、これ以上の下げはないと予想され、相対的に高い単価をユーザー側が許容しているとみられ、その傾向自体に当面変わりはない。	
	テーマパーク（財務担当）	・これから夏休みにかけては、個人客が中心となるためそれに向けたイベントを展開していく予定であるが、現状を大きく変えるほどのものになるかどうかは、不明である。	
	住宅販売会社（従業員）	・住宅ローン金利の上昇が、回復の様相に若干水をさしつつあるように思われる。客の反応もそのように見受けられるケースが散見される。	
	住宅販売会社（経理担当）	・金利の先高感も継続しているが、駆け込み需要的な契約は月初の予測ほど増えていないため、今後もこの傾向は続く。	
やや悪くなる	商店街（代表者）	・ウィークデイも祝日も、ここ1年くらい、本当に来街者の数が減少していて回復の見込みがたたない。	
	百貨店（営業担当）	・原油の高騰はまだ生活全般への影響は少ないが、原材料の値上げ等不安材料が多い。高額商品がよく売れる傾向はまだ続いてはいるが、二極化はさらに進行する。	
	コンビニ（エリア担当）	・客数も客単価も大幅にダウンしているため、売上は前年割れを起こしている。必要なもの・緊急性のあるもののみコンビニを利用し、その他は単価の安いスーパー・ドラッグストアに流れている。今後も使い分けがさらに進んでいく。	
	乗用車販売店（統括）	・今年になって売上は前年を常に下回っていて、今後も回復しそうにない。	
	乗用車販売店（店長）	・3月の反動で、4月は昨年を大幅に下回るほど売上が減少し、先行きが不安である。	
	乗用車販売店（販売担当）	・全国的には景気が回復しているということであるが、我々のまわりは、公共事業関連の依存度が非常に高く、消費の回復が今後も見込めない。したがって、車の販売も厳しい状況が続く。	
	スナック（経営者）	・5月は大型連休でレジャーに出る人が多く、夜の街は暇になる。客は、レジャーに出費するため、飲み代にはまわってこない。	
	観光型ホテル（経理総務担当）	・原油価格の高騰による消費の冷え込みで、消費活動そのものが低迷して観光までまわらなくなる。	
悪くなる	一般小売店〔家具〕（経営者）	・地域の高齢化が進み、住宅も建たない上に、結婚等での若い人の消費需要も低下している。年配者・退職者・高齢者は買い控えの傾向がみられ、これからの消費の動向はいよいよ悪くなる。	
	スーパー（財務担当）	・競合店の出店が加速しており、影響が懸念される。また、価格競争が激化しており売上減が予想される。	
	乗用車販売店（サービス担当）	・今年はモデルチェンジの車がなく、期待できることがない。	
企業動向関連	良くなる	輸送用機械器具製造業（経理担当）	・二つの新製品を連続して生産開始し、さらにもう一つの新製品の生産開始を予定しているが、既に開始した二つが大変好調で、過負荷により、三つめの生産開始を遅らせることとなりそうである。
	やや良くなる	金属製品製造業（総務担当）	・仕事量は十分あり、設計や生産現場ともフル稼働である。しかし、ここにきて原油や非鉄相場が上昇しているため、関連する原材料の値上げ要請が懸念される。
		電気機械器具製造業（総務担当）	・自動車関連は向こう3か月フル操業の受注が入っており、まだ好調維持が見込まれる。夏場に向け、省エネタイプのエアコン受注が活発化してくると予想しており、メーカー・部材供給とも強気である。
		その他製造業〔スポーツ用品〕（総務担当）	・まだ部分的ではあるが取引先等に徐々に各業種に好景気感が広まりつつあり、全体が押し上げられてくる。
	輸送業（統括）	・6月以降新規業務の計画が数件入っている。しかし業務中止もあり、収入の増加は非常に緩やかである。	

	金融業（営業担当）	・ガソリンの高騰で運賃等の値上げもあり、収益的にはかなり厳しい企業が多いと思われる。しかし、山口県では大規模な市町村合併により、公共工事が早めに出てくと予測される。競争率は高く、個々の企業にとっては厳しいであろうが、全体としてはかなりの工事量が期待される。	
	不動産業（経営者）	・金融機関の動きが活発になることにより、賃貸・売買がやや良くなっており、この傾向が続く。	
変わらない	化学工業（総務担当）	・物流費や原燃料費高等の影響はあるものの、当面現状を維持する。	
	鉄鋼業（総務担当）	・アジア域内での汎用品などの在庫調整が進展するなど、鋼材需給が引き締まってきている。引き合いも大幅に増加しつつあるが、在庫量は今後も注視しなければならない。	
	一般機械器具製造業（経営企画担当）	・国内・海外ともに自社製品の売上は順調に推移しているが、原材料の高騰による生産コストの悪化が当分続く。	
	輸送用機械器具製造業（経営者）	・自動車部品製造の業務請負では、受注量に関して、この先3か月くらいをみても、現在と変わらずに良い傾向が続く。	
	建設業（営業担当）	・土地の情報依頼が依然として多くあり、決まれば実施に移る状況である。	
	通信業（営業企画担当）	・情報通信業界の再編の動きが続いており、光ファイバーのコンテンツも拡大傾向ではある。しかしユーザー層がまだ様子見状態にあるとも言える現状では、通信サービスの受注量が早期に増加するとは思えず、景気がよくなるとの見方はできない。	
	金融業（業界情報担当）	・米国経済の減速や原油高騰など不透明感が徐々に強まっているが、当面は欧州やアジア向け輸出がけん引役となり、高水準の受注が続く。	
	会計事務所（職員）	・消費の伸びや受注活動が活発化する兆しはみえるものの、公共投資の不振が全体的に足を引っ張っている。あともう一步の活気がみられない。	
やや悪くなる	食料品製造業（総務担当）	・これから棚卸し在庫が増加し、負債資産の増加が懸念される。	
	食料品製造業（総務担当）	・今後の原油高に加え、原料・資材の値上げに対してどう対応するかが、大きな課題になっている。水産練り製品業界は、コスト積上げ方式で商品価格が決定できないため、今後の経営難が依然として解消できないような状況である。今回二度目の大きな人件費削減を行ったが、今後の事業展開の方向性を含め大きな変革が必要となってきた。	
	窯業・土石製品製造業（総務経理担当）	・4月の生産量は5月も続きそうだが、6月以降は一段落し、現在より生産は15%から20%減少する。	
	電気機械器具製造業（広報担当）	・受注が減少する。	
	輸送用機械器具製造業（総務担当）	・受注量・生産高ともに横ばいの状況が続いているが、原材料等の調達価格は高止まりから一層上昇する傾向にあり、春の賃金改定や団塊の世代の人々の退職に伴う退職金の負担増など、厳しさは一層増大していく。	
	建設業（経営企画担当）	・公共工事の縮小する傾向が以前より大きくなってきている事は、現在までの受注状況からも強く感じられる。また、引き合い物件も約7割が民間で占めている。このような環境下で談合問題もあり、受注を伸ばす事は難しい状況はこれからも続く。	
雇用関連	悪くなる	-	
	良くなる	学校〔大学〕（就職担当）	・企業全体で仕事の量も増えており、人材不足という部分も前面に出てきて、景気はかなり良くなっている。
	やや良くなる	求人情報誌製作会社（支社長）	・求人数の伸び、推移から、やや良くなる。
		求人情報誌製作会社（担当者）	・新卒・中途の対応の必要性を各社感じているように見受けられる。
	変わらない	人材派遣会社（経営者）	・人材派遣需要は引き続き堅調である。派遣社員から正社員への登用や正社員の中途採用など採用意欲は活発になっている。しかしながら派遣登録者数が伸びず、人材供給が充分にできにくい状況になっている。
		人材派遣会社（担当者）	・原油高により、産業の活性化にも歯止めがかかるのではないかと。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・原油価格の高騰がガソリン価格の高騰につながり、消費への影響が懸念される。
	職業安定所（職員）	・管内はほとんどの企業が中小企業であり、都会地の大企業とは対照的に依然厳しい状況が続いているため、求人マインドも低調な状況が続く。	

	職業安定所（職員）	・新規求人数は特別増加要因もないため、今のまま推移する。ただ、求職者の動きは活発になり、求職者数の増加により求人倍率は低下する。
	職業安定所（職員）	・大手企業を中心として、採用意欲は依然高いものがある。これが、新卒者を中心とした従業員の採用について、他の関連企業に及ぼす影響に期待している。
	職業安定所（雇用開発担当）	・新規求人の増加は派遣・パート求人に向うところが多く力強さが無い。また、減少を続けてきた有効求職者数が2か月連続で増加するなど懸念材料もある。
やや悪くなる	民間職業紹介機関（職員）	・円高による輸出業界への影響が懸念される。
悪くなる	-	-